

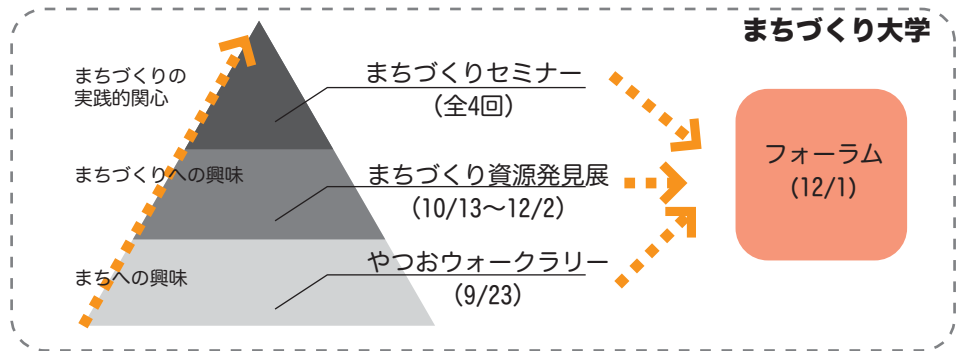
八尾まちづくり大学開講 今までと、これからをつなぐ

text_shiozawa

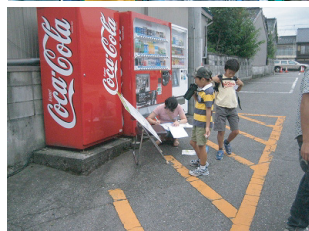
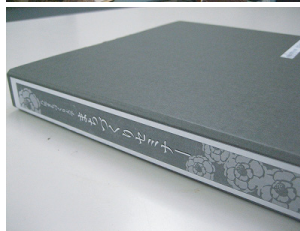
八尾プロジェクトは4年目を迎えて、私たちも、八尾の町も、一度今までの活動を見つめなおし、そしてさらに新たな一歩を踏み出す時期に差し掛かっています。そこで今年度、富山市、八尾町商工会、越中八尾観光協会の協力を得て我々が企画運営するのは「まちづくり大学」なるものです。



「まちづくり大学」とは何かというと、主に「まちづくりセミナー」「まちづくり資源発見展」「やつおウォークラリー」の3つの柱から構成されていて、9月22日から12月2日までの期間、八尾にて怒涛のまちづくり月間が継続するというものです。



「まちづくりセミナー」は「まちづくり大学」の中でもメインの柱で、定期的に計4回、まちの未来の担い手を発掘し、かつ、このセミナーを機にお互いのつながりをつくって欲しいというのが目的です。その第1回が先日、9月22日に行われ、まずは今までの八尾のまちづくりの動きを概観。参加者21名（欠席者もいましたが）は地元出身の方々が主ですが、外部からの参加者もあり、これからの展開が期待されます。



「やつおウォークラリー」は主に子どもを対象に、八尾のまちをもっと知って、まちを楽しんでほしいという思いから企画し、商工会や「ふるさと発見塾」の方と協力して行ったイベントで、9月23日に開催されました。子どもと親合わせて総勢40名を越える参加者に感慨もひとしおでした。逆に楽しませてもらった幸いです。

写真

左上：セミナーの様子。ゲストを招いて今までの取り組みについてお話していただく。左下：セミナー受講者は毎回持参！大学ですから。右上：ウォークラリーの様子。走り回る子ども達。親は大変です。右下：途中いくつかチェックポイントが。さて、問題とけるかな？

喜多方のれんお披露目

text_kakibaya

去る9月8日、「蔵してる通りフェスティバル」開催とあわせ、おたづき蔵通りに連続してのれんを並べた景観実験が行われました。8月26日の第2回のにれん作りワークショップでは時間中に半分ほどののれんしか仕上がらず、全部完成するのか、うまく設置できるのか、当日まで不安が尽きませんでした。多くの住民・商店主の方々の積極的な協力のもと32枚の日除けのれんが完成。並んだの

れんは通りに一体感を与え、訪れた人からは「こういうまちなのかと思った」という声も聞かれました。今回作成したのれんは実験用の一時的なものですが、地域住民が町並みについて考える機会を与え、皆で実際に手を動かしてものを作り上げていくという一連の取り組みは、今後のまちづくりに向けて非常に価値のあるものであったと思います。

のれんの景観実験



ワークショップの様子



最優秀賞受賞！！ 香取市公共施設修景プロポーザル

M1 鎌形敬人

8月後半、M1有志で佐原の伊能忠敬記念館駐車場を修景する実施設計学生コンペに取り組みました。板塀や路地のデザインを提案するもので5日間ほどの短期集中でしたが、行政審査と住民審査を経て、最優秀賞を受賞することができました。

思いつきの参加が最優秀賞という形にまでなったことには驚きと戸惑いを感じますが、実現に向けて普段は関われないある意味ドライな部分にも関わっていけることは大きな経験になると思っています。

今後は行政と設計協議を進めていきます。第1回が先日9/19に行われ、主に予算や管理の面から設計の修正を話し合いました。年内に3回ほど設計協議を行い、来年1月頃に入札着工される予定です。また、結果は香取市HPにも掲載されています。



GSデザインワークショップ

M1 鎌形敬人

9/8から9/15まで、GSDW (Ground Scape Design Workshop) に参加してきました。社会基盤の景観研が中心となって開催されたもので、今年で4回目です。

講師陣は篠原修先生、内藤廣先生をはじめ、北山恒先生、陣内秀信先生、国吉直行氏など豪華布陣。設計対象地は横浜開港の地、象の鼻でした。たった一週間のグループワークなので、朝9時から終電まで食事の時間も惜しんで話し合いを重ねました。徹夜も3回ほど。

とはいえ、結果は大失敗。互いに言っていることが伝わらなかったり、分野による常識や注目しているポイントの違いを痛感したり、なかなか手が動かないもどかしさに悩んだり、自分の立ち位置や役割に迷ったり、失言をしてしまったり。決して満足行くモノではありませんでしたが、その不満足のひとつひとつが大きな経験になったと思います。



編集後記

前号の旅行特集に触発されて？夏休みを振り返ると、思い出深いのは八月に行った青森ねぶたと九月の八尾おわら風の盆でした。飛び跳ねて踊るねぶたと静かに舞うおわら。対象的な二つの祭りでしたがどちらの時も、日が傾くにつれて盛り上がるまちの空気と、暗くなったまちを満たす独特の音-ねぶたの鈴・おわらの胡弓の存在感は、とても印象的でした。長い休みも終わり。もう秋ですね。

浅草プロジェクト 地元会合でまち歩きの報告と 提案を発表

M1 北村修一

9月20日、浅草観音うら地区で地元振興会の会合が行われ、中島助教が地元に行くアンケートとまちづくりビジョンの提案を、私がまちの印象と発表いたしました。

地元では外国人向けのマップを作成する、お年寄りの方からヒアリングを行う、100円バスを新東京タワー経由して走らせるよう要請したといった街の振興に向けての活動が行われていて、その報告が行われました。

地元の方のまちづくりに対する関心の高さが実感でき、我々メンバーとの相互理解も進んできました。今後は観音うら全体のビジョンを策定し、街を細かく調査した上で実現性のある提案を行っていきます。



写真は浅草寺で行われている浅草燈籠会の様子

「永井ふみ (OG) の世界」 赤ちゃんアート展の軸に

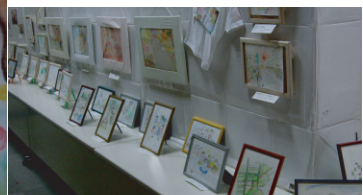
OB 酒井憲一

都市デザイン研究室の永井ふみOG (旧姓藤本、2005年修士) は、石塚計画デザイン事務所で活躍のかたわら、絵達者の経験を生かし、長男陽太郎くんの誕生を機にその寝顔を描いた「ゆりかごの歌」が評判になり、9月8~10日東京都児童会館で開催された「赤ちゃんアート展」(赤ちゃん学校主催公募展) のメイン企画「プランナー永井ふみの世界」において、30点に上るメルヘンティックな絵が展示され、最も人気を集めた。

都市デザイン研究室時代から風景分野に強く、その特技と母親としての感性で描いた「育児ママの風景絵日記」が、斬新な社会的切り口の絵と文で絶賛を浴び、この絵が「ゆりかごの歌」などととも展示されたものである。

「風景絵日記」は、赤ちゃん学校発行『週刊ベビーマガジン』(277号、279号~302号) に連載された作品であるが、研究室OBの酒井憲一が赤ちゃん学校長であることから、永井OGはともに都市デザイン研出身コンビとして、赤ちゃんアート展で奮闘した。入場者は予想を超えて300人になった。

永井OGは「ゆりかごの歌」を主題とした同展ポスター、リーフレット、Tシャツのほか、赤ちゃん学校ロゴマークも制作、自ら実行委員会メンバーとしてプロデューサーを務め、ボランティアな貢献をした。



永井OGの赤ちゃんについては、誕生3ヵ月後の昨年8月に研究室有志5人でお祝い訪問し、翌月の「都市デザイン研マガジン」34号が「幸せおすそ分けツアー in 横浜 永井OG宅に赤ちゃんを訪ねる」の見出しで報じた。

text_hiraoka